

いのちの輝きを見つめる

*Meiji*

第146期  
事業報告書

平成16年4月1日～平成17年3月31日

## CONTENTS

株主の皆様へ	1
営業の概況（連結）	2
連結貸借対照表	6
連結損益計算書／連結キャッシュ・フロー計算書	7
単独貸借対照表	8
単独損益計算書／利益処分	9
業績の推移／連結子法人等	10
<b>Meiji</b> News	11
新製品紹介	12
トピックス	14
子会社レポート	15
役員／従業員／主要な事業所	16
株式の状況	17

# ● 経営の基本方針

当社グループは、「夢と楽しさ、いのちの輝きを大切にし、世界の人々の心豊かなくらしに貢献します」を企業理念に掲げ、「おいしさと健康」を創造するグローバルな企業集団として、これからもお客様にとって価値のある商品・サービス・情報を提供してまいります。

そして、お客様の喜びを大切にすることを第一に、社員一人ひとりの個性も尊重しながら、健全な収益体制のもとで活力ある発展を目指し、社会への責務を果たしてまいります。

## 2005年度経営方針

### 1

#### 競争力の強化による事業拡大

- (1) 「健康」「夏」「海外」をキーワードとした挑戦
- (2) 既存主力事業の強化
  - ① チョコレート・ココア事業の拡大
  - ② 医薬品開発のスピードアップと営業力強化
- (3) 企業体質の強化
  - ① 「健康」を中核としたビジネスモデルの確立
  - ② 効率的な生産体制の整備

### 2

#### 社会的責任（CSR）経営の徹底によるブランド価値の向上

- (1) 品質保証体制の強化
- (2) コンプライアンスの徹底と社内体制の整備

### 3

#### 挑戦的な目標設定と実行のスピードアップ

## 株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のことと拝察申し上げます。さて、当社は3月31日をもちまして、第146期営業年度を終了いたしましたので、ここに事業報告書をお届けし、営業の概況等をご報告申し上げます。

当社グループを取り巻く事業環境は、少子高齢化の進展や医療制度の諸改革によって市場の成長が鈍化するなど、依然として厳しい状況が続いておりますが、食料・薬品・ヘルスケア事業を主力とする当社グループは、今後も「健康」領域を中心とした積極的な事業展開を図り、さらなる成長を実現するための課題として「チャレンジ2005」の推進とCSR（企業の社会的責任）活動の推進に取り組んでまいります。

まず、「チャレンジ2005」の推進についてですが、当社グループでは、2003年7月に2005年度（平成18年3月期）を最終年度とする中期経営計画「チャレンジ2005」を策定し、「強くて、おもしろい会社」をキーワードに「売上高4,000億円、経常利益160億円、当期純利益70億円」という過去最高水準の業績目標の達成に向けて収益力の回復に努めてまいりました。この「チャレンジ2005」は、「構造改革計画」と「事業発展計画」で構成されており、構造改革としては退職給付に関する未認識債務の一括償却、早期転身支援制度の運用拡大、生産拠点の再編成などに取り組んでまいりました。こうした改革につきましては既に一定の成果をあげていることから、今後は、従来にも増して事業発展計画を強力に推進し、「攻め」の経営に注力してまいります。具体的には2005年度の重点テーマを「健康」「夏」「海外」とし、グループをあげて取り組んでまいります。

一つめの「健康」に関しましては、食業兼業という当社グループの強みを最も活かせる分野であり、ここでの成功が当社グループの今後の成長のカギになると考えております。本年7月には、食料カンパニーとヘルスケアカンパニーを再編・統合し、フード&ヘルスケアカンパニーとして新たな体制を整備することといたしました。この組織再編によって、「健康ビジネス」における営業面の拡充とともに、生産・開発機能の共有化を進める等当社グループの強みや経営資源を健康機能食品分野に集中してまいります。特に開発面では、特定保健用食品の許可取得、機能性素材の開発等において薬品事業のノウハウ・知見・人材を日常的に活用できる体制を構築し、食業兼業のシナジーを最大限に発揮してまいります。

二つめの「夏」に関しましては、当社グループにとって、夏の収益力が弱いという点が長年の課題となっており、今後は、

夏型チョコレート、ガム、キャンデーなどの菓子とザバス、アミノコラーゲン、カラダナビなどの健康機能食品を中心に夏場向けの商品ラインアップを強化するとともに、新たにチルド食品分野を開拓することにより、季節変動の影響を抑えてまいります。

三つめの「海外」に関しましては、特に中国市場に対する取組みを大幅に強化してまいります。食料事業では、廣州明治制菓有限公司の設備を増強するほか、昨年設立した明治制菓（上海）有限公司を中心に、本格的な事業展開を図ってまいります。また、薬品事業では、医療用医薬品の製造拠点として新設した明治魯抗医薬有限公司による生産が本格化するほか、汕頭経済特区明治医薬有限公司は経営体制の整備・強化を行い、自社のMR（医薬情報担当者）による営業展開を図ってまいります。

続いて、CSR活動の推進についてですが、当社グループでは、安全で質の高い製品・サービスを提供するとともに、社会と共生し、社会から必要とされる企業として発展しつづけるためには、CSR活動を推進することが必要不可欠であると考えております。

具体的には、「品質保証」「コンプライアンス」「リスクマネジメント」「環境」「社会貢献」「情報」の6分野に重点的に取り組み、「企業競争力の強化」「Meijiブランドと企業価値の向上」に結びつけてまいります。また、当社グループのCSR活動の基本方針や重要事項の審議・決定を行う「CSR委員会」を新たに設置し、CSR経営の徹底を図ってまいります。

今後とも一層のご愛顧ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成17年6月



代表取締役社長 佐藤尚忠

## 営業の概況（連結）

当期のわが国経済は、企業収益の改善、民間の設備投資の増加など緩やかな景気回復基調が続いておりますが、個人消費の伸びは鈍化傾向にあり、総じて厳しい環境下に推移しました。また、世界経済は、米国や中国の景気拡大により着実に回復傾向にあるものの、原油価格の高騰など、景気の先行きに不透明感が漂う状況で推移しました。

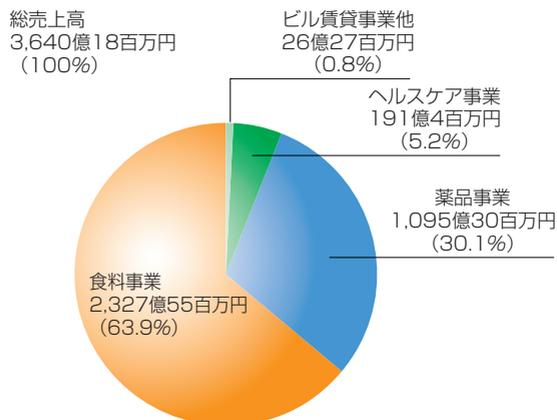
このような事業環境下、当社グループは、主力の食料・薬品・ヘルスケア事業を中心に事業構造改善による体質強化、ならびに積極的なマーケティング活動、市場競争力の強化による売上の拡大に取り組み、収益力の回復に努めてまいりました。

この結果、当期における連結売上高は3,640億18百万円（前期比1.3%減）となりました。一方、経常損益の段階におきましては前期を上回る業績となりましたが、ここ数年推進してきた経営構造改革の一環として、退職給付に関する未認識債務の一括償却、生産拠点の再編成等を実施したことから、当期純損失が82億40百万円（前期当期純利益3億48百万円）となりました。

当社グループのセグメント別売上高の状況は下のグラフのとおりであります。

なお、当期の連結子法人等は、10ページに記載しております。

### ●売上高構成比（連結）



食料事業におきましては、昨年は引き続き市場の低迷や低価格化の浸透に加え、記録的な猛暑の影響も受け、菓子の消費回復には至らず、極めて厳しい事業環境となりました。

このような状況下、当社グループは、消費者のニーズとトレンドを先取りした差別優位性のある新商品開発や戦略的なブランド別トータルマーケティング諸施策の展開により売上の拡大に努めましたが、昨年4月より菓子卸店との取引条件を変更したこともあり、連結売上高は2,327億55百万円（前期比2.4%減）となりました。

なお、この取引制度の改定は、流通近代化に向け、取引の簡素化と建値制の廃止による柔軟な価格設定などをねらいとして、当社が業界に先駆けて実施したものであり、今後の収益力向上につながるものと期待しております。

## 菓子



菓子について品種別にみますと、チョコレートは、主力商品を中心にブランド力強化の取組みと積極的な店頭販促活動を展開し、総じて堅調に推移しました。重点商品の「ミルクチョコレート」「ブラックチョコレート」はカカオポリフェノールの健康訴求による需要喚起に加え、手作りチョコキャンペーンが奏功し、好調に推移しました。「メルティーキッス」は大幅な商品改良と新商品「メルティーキッス抹茶」の発売に

より前期を大きく上回る売上を確保しました。

一方、「アーモンドチョコレート」は市場の低迷で苦戦を強いられ、「きのこの山」「たけのこの里」もチョコスナック市場の縮小などにより減売を余儀なくされました。



なお、昨年9月には、新商品の「うすまきアーモンド」と「ショパン」を発売し、売上に大きく寄与しました。また、「フラン」は新商品を追加して、品揃えの拡充を図りました。

キャンデーは、主力ブランドの「チェルシー」が競争激化で苦戦を強いられましたが、グミは、「果汁グミ」と「ポイフル」にリニューアル品を投入し、堅調に推移しました。

ガムは、主力の「キシリッシュ」にボトルタイプの新商品「大ボトル」を追加するとともに、積極的な販促活動を展開し大幅な増売となりました。



スナックは、主力の「カール」袋タイプが積極的な商品展開と販促キャンペーンにより好調に推移したことから、全体として堅調に推移しました。

ビスケットは、「マクビティ」「コパン」とともに拡売のための諸施策を展開しましたが、競争激化により苦戦を強いられました。

なお、P&G社との提携商品「プリングルズ」およびファイザー株式会社との提携商品「薬用リステリンポケットパック」は、堅調に推移しました。

## ■菓子主要製品

チョコレート（ミルクチョコレート、チョコレート効果、ブラック、ストロベリー、メルティーキッス、ボルテ、アーモンド、アーモンド粗挽きクランチ、マカダミア、うすまきアーモンド、フラン、きのこの山、たけのこの里、ホルン、ガルボ、レガ、ボーダ、ショパン、ブッカ、アポロ、マーブル、チョコベビー、プチアソートほか）、キャラメル、キャンデー（チェルシー、ヨーグレット、ハイレモン、果汁グミ、ポイフル、キュン、もぎもぎフルーツほか）、ガム（キシリッシュほか）、スナック（カール、カールスティック、北海道ポテト、ビックアップほか）、ビスケット（マクビティ、コパンほか）

## 食品

食品について品種別にみますと、ココアは、主力の「ミルクココア」に加え、高ポリフェノール含有商品「テオプロ」の大幅リニューアル品を発売し、また、昨年



5月に発売した「おいしいココア」も売上に寄与し、総じて堅調に推移しました。

レトルトカレーは、主力の「銀座カレー」シリーズが店内イベントを中心とした店頭販促活動が奏効し、順調に推移しました。



健康機能食品は、主力の「パーフェクトプラス」シリーズに新商品とリニューアル品を投入するとともに、コンビニエンスストアを中心に店頭露出を強化しましたが、競争激化で減売を余儀なくされました。



また、業務用食材は、新規商材の提案など積極的な市場開拓を実施し、順調に推移しております。

なお、主要な連結子法人等の業績につきましては、国内では、株式会社明治フードマテリアは、主力の砂糖における主要取引先との取引条件が変更されたことにより、減売となりました。また、明治チューインガム株式会社は、これまで培った商品開発力とマーケティングの強化により、好調に推移しました。

海外では、明治製菓シンガポール社は、現地市場での積極的な販促活動が奏効し順調に推移し、スタウファー・ビスケット社も米国内市場の競争激化のなか、着実に回復しております。

## ■食品主要製品

嗜好飲料（テオプロ、ミルクココア、おいしいココアほか）、レトルトカレー（銀座カレー、銀座赤カレー、銀座黒カレーほか）、健康機能食品（パーフェクトプラスほか）、調理食品（JALスープほか）、農産缶詰、業務用食材、砂糖、糖化製品

医療用医薬品におきましては、昨年4月に実施された業界平均4.2%の薬価引下げなど医療費抑制策の浸透、新薬開発を巡る競争激化や研究開発費の増大により、業界環境は一層厳しい状況となっております。また、農薬・動物薬におきましても、市場の縮小による企業間競争の激化に加え、動物薬抗生剤の適正使用の徹底等、行政による規制も一段と強化され、厳しい事業環境に終始しました。

このような状況下、当社グループは、医療用医薬品におきましては、重点領域の感染症および中枢神経系領域における販売品目の絞込みと経営資源の集中投入を行い、特に中枢神経系領域では専任のMR（医薬情報担当者）を投入するなど競争力強化の各種施策を推進しました。また、農薬・動物薬事業におきましても、昨年6月に第一製薬グループより動物薬事業を譲り受けるなどの事業拡大策を推進しました。

この結果、薬品事業の連結売上高は1,095億30百万円（前期比0.9%増）となりました。

内容別にみますと、医療用医薬品におきましては、主力の抗菌薬では、市場が縮小し、競争が激化するなか、主力製品の「メイアクト」は、新製剤「メイアクトMS小児用細粒」を発売して、前期を上回る売上を確保しました。また、「オメガシン」は着実な市場開拓により好調に売上を伸ばし、「スオード」も堅調に推移しました。一方、「ハベカシン」「ホスミシン」は薬価引下げの影響もあり減売を余儀なくされました。

中枢神経系用薬では、専任のMRの投入による積極的な学術普及活動が奏功し、抗うつ薬「デプロメール」および抗不安薬「メイラックス」がともに増売となりました。



その他の医療用医薬品では、アレルギー性疾患治療薬「エバステル」は花粉症の流行により大幅に伸長しましたが、外用消毒薬「イソジン」は薬価引下げの影響と競争激化により減売となりました。

農薬におきましては、水稻の減反政策など厳しい環境下において、着実な販促活動により前期を上回る売上を確保しました。とりわけ主力のいもち病防除剤「オリゼメート」は一昨年にいもち病が多く発生したことから生産者の防除意欲が高まり、また、利便性を高めた新製剤の売上の寄与もあり、順調に推移しました。一方、除草剤「ハービー」は競争激化により減売となりました。

動物薬におきましては、既存品は行政による規制強化の影響や競争激化により減売となりましたが、昨年6月に第一製薬グループから譲り受けた動物薬事業の移管製品が寄与し、大幅な増売となりました。

輸出につきましては、主力製品の「メイアクト」を中心に、積極的な営業展開を推進しましたが、世界的な医療費抑制策強化の影響もあり、減売となりました。

なお、連結子法人等の業績につきましては、国内では、北里薬品産業株式会社は、インフルエンザワクチン等の売上が大幅に伸長し、好調に推移しました。また、富士アミドケミカル株式会社は、化成品の積極的な販促活動を展開しましたが、国内外競合品との価格競争等により減売となりました。

海外では、タイ・メイジ社は、現地市場での積極的な販促活動が奏効し好調に売上を伸ばし、また、P.T.メイジ・インドネシア社は、現地市場での販売、輸出ともに堅調に推移しました。一方、スペインのテデック・メイジファルマ社は、主力製品の薬価引下げの影響を受け減売となりました。

#### ■薬品主要製品

医療用  
医薬品 抗菌薬（メイアクト、ホスミシン、ハベカシン、スオード、オメガシン、シプロキサソルホカ）、中枢神経系用薬（抗うつ薬デプロメール、抗不安薬メイラックス）、その他の医療用医薬品（外用消毒薬イソジン、アレルギー性疾患治療薬エバステル、抗悪性腫瘍薬テラルピシン、抗ウイルス化学療法薬ビクロックスほか）、人体用ワクチン、化成品

農薬 農薬 (Dr.オリゼプリンス、オリゼメート、ハービー、ジベレリン、アグレプトほか)、動物薬 (メイポール、メイリッチ、アストップ、マイコバスター、ボセイドン、マリンバンテル、小動物用薬品ほか)、飼料添加物 (コリスチン、セルラーゼほか)

## ヘルスケア事業

ヘルスケア事業におきましては、健康機能食品では、消費者の健康に対する意識の向上や美容・ダイエットへの関心の高まりから市場は拡大している反面、参入企業も多く、開発・販売競争が激化する事業環境となりました。また、一般用医薬品では、市場の停滞と価格の下落傾向のなか、企業間の事業統合の動きも表面化しており、シェア獲得競争が一段と激化する厳しい環境となりました。



このような状況下、当社グループは、多様な消費者ニーズに応じた新商品の開発と、主力品のブランド力向上のためのマーケティング活動を展開しました。

この結果、ヘルスケア事業の連結売上高は191億4百万円（前期比1.1%増）となりました。

内容別にみますと、健康機能食品におきましては、消費者の健康志向の高まりから、主力の「ザバス」はトップアスリートに対する栄養サポートに加え、消費者へのブランド認知向上のための積極的な販促活動を展開して好調に推移しました。また、「アミノコラーゲン」もマーケティング活動の強化に加え、品揃えの拡充により大幅に伸長しましたが、「ローラ」は競争激化で減売となりました。なお、シニア市場をターゲットにしたサプリメント「カラダナビ」シリーズは着実な普及活動を展開して市場の拡大に努めております。

一方、一般用医薬品におきましては、主力の「イソジン」各種製剤は価格競争が激化するなか、うがい・手洗いの啓蒙普及活動と宣伝、販促キャ



ンペーンが奏功し堅調に推移しました。また、ミニドリンク剤「活<sup>かつじん</sup>蔘28」は効果的な店頭販促活動により、その効能が消費者に認知され好調に推移しました。



なお、連結子法人等の業績につきましては、スポーツクラブ施設を経営する株式会社明治スポーツプラザは、業界の競争激化や再編が進むなか、新店舗の開設に加え、集客力と顧客満足の向上に積極的に努め、売上は順調に推移しました。

## ヘルスケア主要製品

健康機能食品 (ザバス、ローラ、アミノコラーゲン、カラダナビ、パーフェクトプラス、プロテインダイエットほか)、一般用医薬品 (イソジンうがい薬、イソジンのどフレッシュF、外用消毒薬イソジンS、解熱鎮痛薬バイエルアスピリン、明治Gトローチ、かぜ薬ヘルピックス顆粒、ミニドリンク剤活蔘28ほか)

## ビル賃貸事業他

ビル賃貸事業他につきましては、首都圏における大規模ビルの需給環境は改善傾向にあるものの、賃貸料の下落に加え、テナント企業の事業縮小の影響もあり、主力のオフィスビル「ソリッドスクエア」の入居率が低下するなど、厳しい環境下に推移しました。

なお、レジャー・スポーツ施設を経営する株式会社明治開発は、積極的な営業施策を展開してきたものの、消費低迷のなか、今後の業績回復が見込めず、また施設の老朽化などもあり、平成16年11月末日をもって解散し、平成17年3月14日に事業を清算しております。

この結果、ビル賃貸事業他としての収入は26億27百万円（前期比13.7%減）となりました。

(注) 従来、「食料事業」「薬品事業」「ヘルスケア事業」「ビル賃貸事業」「その他事業」の5事業に区分しておりましたが、「その他事業」の重要性が低下したため、当期より「その他事業」は「ビル賃貸事業他」に含めて記載しております。

# 連結貸借対照表

(平成17年3月31日現在)

(単位：百万円)

科目	当期	前期	科目	当期	前期
<b>資産の部</b>	<b>339,848</b>	<b>330,059</b>	<b>負債の部</b>	<b>192,403</b>	<b>173,068</b>
<b>流動資産</b>	<b>160,255</b>	<b>154,610</b>	<b>流動負債</b>	<b>84,880</b>	<b>95,052</b>
現金および預金	23,357	11,271	支払手形および買掛金	26,097	27,339
受取手形および売掛金	76,365	74,034	短期借入金	17,223	20,110
たな卸資産	44,897	51,231	コマーシャルペーパー	—	4,000
繰延税金資産	5,694	5,172	未払費用	11,931	12,149
その他	10,036	12,961	未払法人税等	3,514	4,305
貸倒引当金	△ 95	△ 60	賞与引当金	4,838	5,107
<b>固定資産</b>	<b>179,592</b>	<b>175,448</b>	売上割戻引当金	4,670	5,550
<b>有形固定資産</b>	<b>139,906</b>	<b>138,821</b>	その他	16,605	16,490
建物および構築物	75,521	69,303	<b>固定負債</b>	<b>107,522</b>	<b>78,015</b>
機械装置および運搬具	36,142	33,852	社債	40,000	20,000
工具器具備品	2,269	2,406	長期借入金	24,118	22,542
土地	24,965	25,106	長期繰延税金負債	6,238	13,105
建設仮勘定	1,008	8,152	退職給付引当金	32,451	17,959
<b>無形固定資産</b>	<b>4,257</b>	<b>3,457</b>	役員退職慰労引当金	528	422
連結調整勘定	2,115	2,161	その他	4,185	3,986
その他	2,142	1,296	<b>少数株主持分</b>	<b>2,607</b>	<b>2,441</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>35,428</b>	<b>33,169</b>	<b>資本の部</b>	<b>144,837</b>	<b>154,549</b>
投資有価証券	31,159	28,949	<b>資本金</b>	<b>28,363</b>	<b>28,363</b>
長期繰延税金資産	240	242	<b>資本剰余金</b>	<b>34,946</b>	<b>34,935</b>
その他	4,993	4,962	<b>利益剰余金</b>	<b>73,611</b>	<b>84,575</b>
貸倒引当金	△ 965	△ 984	<b>株式等評価差額金</b>	<b>10,407</b>	<b>9,133</b>
<b>資産合計</b>	<b>339,848</b>	<b>330,059</b>	<b>為替換算調整勘定</b>	<b>△ 1,514</b>	<b>△ 1,355</b>
			<b>自己株式</b>	<b>△ 977</b>	<b>△ 1,103</b>
			負債・少数株主持分および資本合計	<b>339,848</b>	<b>330,059</b>

(注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額 209,450百万円 207,656百万円

2. 受取手形割引高 30百万円 18百万円

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結損益計算書

(平成16年4月1日から平成17年3月31日まで)

(単位：百万円)

科目	当期	前期
<b>(経常損益の部)</b>		
営業損益の部		
営業収益	364,018	368,865
売上高	364,018	368,865
営業費用	355,300	360,984
売上原価	206,231	213,626
返品調整引当金繰入額	200	—
薬品返品調整引当金戻入額	—	10
販売費および一般管理費	148,869	147,367
営業利益	8,717	7,881
営業外損益の部		
営業外収益	2,367	3,063
受取利息・配当金	458	413
持分法による投資利益	108	83
その他の営業外収益	1,800	2,566
営業外費用	2,581	2,701
支払利息	1,227	1,318
その他の営業外費用	1,354	1,383
経常利益	8,503	8,243
<b>(特別損益の部)</b>		
特別利益	2,946	1,768
固定資産売却益	2,558	473
投資有価証券売却益	182	1,039
関係会社株式売却益	—	121
その他の特別利益	205	133
特別損失	23,779	6,306
退職給付に関する未認識債務一括償却額	13,295	—
事業構造改善費用	7,337	4,824
固定資産廃棄損	950	806
その他の特別損失	2,197	675
税金等調整前当期純利益	—	3,705
税金等調整前当期純損失	12,330	—
法人税、住民税および事業税	3,728	4,963
法人税等調整額	△ 8,283	△ 1,930
少数株主利益	464	324
当期純利益	—	348
当期純損失	8,240	—

(注) 1株当たりの当期純利益 — 79銭  
1株当たりの当期純損失 21円53銭 —

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(平成16年4月1日から平成17年3月31日まで)

(単位：百万円)

科目	当期	前期
営業活動による キャッシュ・フロー	16,731	6,663
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 16,772	△ 5,424
財務活動による キャッシュ・フロー	11,977	△ 6,028
現金および 現金同等物に係る換算差額	21	84
現金および 現金同等物の増減額(減少:△)	11,957	△ 4,705
現金および 現金同等物の期首残高	10,688	15,290
新規連結による現金 および現金同等物の増加額	—	103
現金および 現金同等物の期末残高	22,646	10,688

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

# 単独貸借対照表

(平成17年3月31日現在)

(単位：百万円)

科目	当期	前期	科目	当期	前期
<b>資産の部</b>	<b>311,376</b>	<b>298,881</b>	<b>負債の部</b>	<b>173,151</b>	<b>150,850</b>
<b>流動資産</b>	<b>137,454</b>	<b>128,966</b>	<b>流動負債</b>	<b>68,759</b>	<b>77,946</b>
現金・預金	16,937	5,551	支払手形および買掛金	22,971	22,738
受取手形および売掛金	65,465	61,869	短期借入金	10,404	13,059
商品・製品・半製品	20,417	27,114	コマーシャルペーパー	—	4,000
原材料	8,428	7,549	未払金	7,966	7,522
仕掛品	9,662	9,070	未払費用	9,893	9,812
繰延税金資産	4,771	4,252	未払法人税等	2,534	3,427
その他の流動資産	11,813	13,578	賞与引当金	3,926	4,188
貸倒引当金	△ 42	△ 21	返金調整引当金	260	60
<b>固定資産</b>	<b>173,921</b>	<b>169,915</b>	売上割戻引当金	4,670	5,550
<b>有形固定資産</b>	<b>123,213</b>	<b>122,414</b>	その他の流動負債	6,131	7,587
建物および構築物	69,528	63,820	<b>固定負債</b>	<b>104,392</b>	<b>72,904</b>
機械装置	28,888	26,530	社債	40,000	20,000
車両運搬具	122	57	長期借入金	22,552	18,742
工具器具備品	1,931	2,035	長期繰延税金負債	5,753	12,724
土地	21,786	21,966	退職給付引当金	31,677	17,199
建設仮勘定	954	8,002	役員退職慰労引当金	449	357
<b>無形固定資産</b>	<b>1,498</b>	<b>632</b>	その他の固定負債	3,960	3,880
投資その他の資産	49,210	46,869	<b>資本の部</b>	<b>138,224</b>	<b>148,031</b>
投資有価証券	28,541	26,417	<b>資本金</b>	<b>28,363</b>	<b>28,363</b>
関係会社株式	16,234	16,084	<b>資本剰余金</b>	<b>34,946</b>	<b>34,935</b>
出資金	370	567	資本準備金	34,935	34,935
関係会社出資金	1,757	1,409	その他資本剰余金	11	—
長期貸付金	1,411	1,494	<b>利益剰余金</b>	<b>65,714</b>	<b>76,855</b>
その他の投資	1,860	1,874	利益準備金	7,090	7,090
貸倒引当金	△ 965	△ 977	任意積立金	65,552	66,731
<b>資産合計</b>	<b>311,376</b>	<b>298,881</b>	固定資産圧縮積立金	23,052	24,231
			別途積立金	42,500	42,500
			当期未処分利益	—	3,033
			当期未処理損失	6,928	—
			<b>株式等評価差額金</b>	<b>10,177</b>	<b>8,980</b>
			<b>自己株式</b>	<b>△ 977</b>	<b>△ 1,103</b>
			<b>負債および資本合計</b>	<b>311,376</b>	<b>298,881</b>

(注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額 188,339百万円 187,216百万円

2. 受取手形割引高 30百万円 18百万円

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 単独損益計算書

(平成16年4月1日から平成17年3月31日まで)

(単位：百万円)

科目	当期	前期
<b>(経常損益の部)</b>		
営業損益の部		
営業収益	271,546	271,951
売上高	271,546	271,951
営業費用	267,132	268,058
売上原価	132,020	134,279
返品調整引当金繰入額	200	—
返品調整引当金戻入額	—	10
販売費および一般管理費	134,912	133,789
営業利益	4,413	3,892
営業外損益の部		
営業外収益	3,192	3,983
受取利息・配当金	1,183	1,155
雑収入	2,008	2,828
営業外費用	2,155	1,984
支払利息	1,045	1,089
雑損	1,109	894
経常利益	5,450	5,892
<b>(特別損益の部)</b>		
特別利益	2,091	3,906
固定資産売却益	1,889	464
投資有価証券売却益	182	1,039
関係会社株式売却益	—	2,319
その他の特別利益	19	82
特別損失	23,324	6,078
退職給付に関する未認識債務一括償却額	13,295	—
事業構造改善費用	7,137	4,824
固定資産廃棄損	836	723
その他の特別損失	2,055	529
税引前当期純利益	—	3,721
税引前当期純損失	15,782	—
法人税、住民税および事業税	2,077	3,573
法人税等調整額	△ 8,313	△ 1,822
当期純利益	—	1,971
当期純損失	9,545	—
前期繰越利益	2,841	2,409
中間配当額	1,340	1,347
事業再編に伴う剰余金受入高	1,115	—
当期未処分利益	—	3,033
当期未処理損失	6,928	—

(注) 1株当たりの当期純利益 — 5円4銭  
1株当たりの当期純損失 24円90銭 —

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 利益処分

(単位：円)

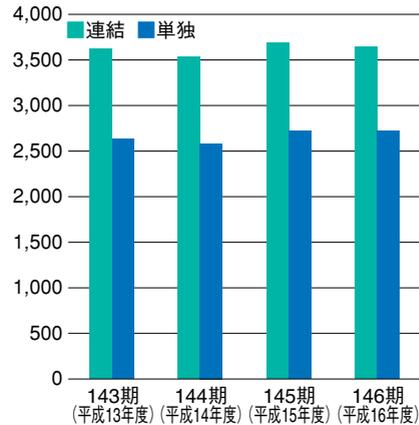
科目	当期	前期
当期未処分利益	—	3,033,134,002
当期未処理損失	6,928,724,771	—
任意積立金取崩額	10,774,439,675	1,380,049,170
固定資産圧縮積立金取崩額	1,274,439,675	1,380,049,170
別途積立金取崩額	9,500,000,000	—
計	3,845,714,904	4,413,183,172
これを次のとおり処分いたします。		
利益配当金	1,341,764,242 (1株につき3円50銭)	1,340,755,861 (1株につき3円50銭)
取締役賞与金	—	29,600,000
固定資産圧縮積立金	1,073,534,965	201,122,627
次期繰越利益	1,430,415,697	2,841,704,684

(注) 1. 平成16年12月10日に1,340,883,219円(1株につき3円50銭)の中間配当を実施いたしました。  
2. 固定資産圧縮積立金の取崩額および固定資産圧縮積立金の積立額は、租税特別措置法に基づくものであります。

# 業績の推移

## 売上高

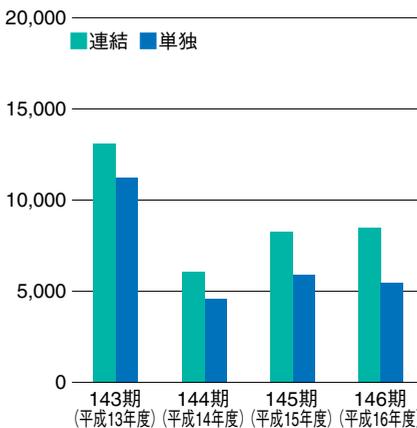
(単位：億円)



連結	3,618	3,534	3,688	3,640
単独	2,630	2,582	2,719	2,715

## 経常利益

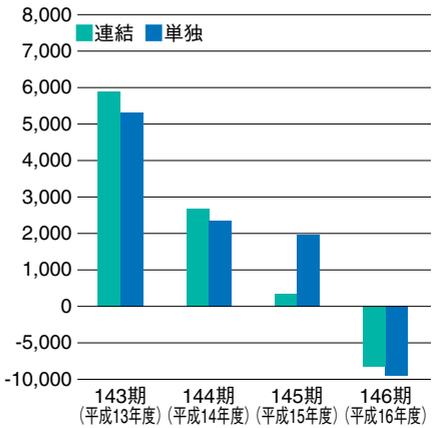
(単位：百万円)



連結	13,122	6,072	8,243	8,503
単独	11,245	4,581	5,892	5,450

## 当期純利益

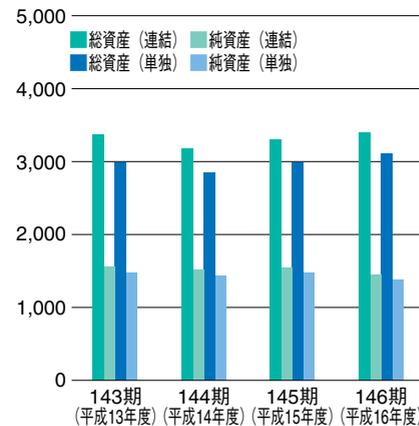
(単位：百万円)



連結	5,887	2,670	348	△8,240
単独	5,301	2,352	1,971	△9,545

## 総資産・純資産

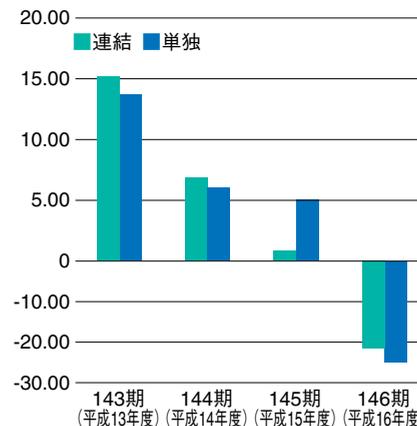
(単位：億円)



総資産 (連結)	3,369	3,177	3,300	3,398
総資産 (単独)	2,991	2,851	2,988	3,113
純資産 (連結)	1,559	1,522	1,545	1,448
純資産 (単独)	1,474	1,435	1,480	1,382

## 1株当たりの当期純利益

(単位：円)



連結	15.20	6.83	0.79	△21.53
単独	13.69	6.03	5.04	△24.90

## 連結子法人等

株式会社明治フードマテリア  
 道南食品株式会社  
 蔵王食品株式会社  
 株式会社口ロンド  
 明治産業株式会社  
 明治チュースインガム株式会社  
 株式会社アステカ  
 岡山県食品株式会社  
 四国明治株式会社  
 太平洋食品株式会社  
 富士アミドケミカル株式会社  
 北里薬品産業株式会社  
 株式会社明治スポーツプラザ  
 Meiji Seika (Singapore) Pte. Ltd. (シンガポール)  
 D.F.Stauffer Biscuit Co., Inc. (アメリカ)  
 Laguna Cookie Co., Inc. (アメリカ)  
 P.T. Meiji Indonesian Pharmaceutical Industries (インドネシア)  
 Thai Meiji Pharmaceutical Co., Ltd. (タイ)  
 Tedec-Meiji Farma S.A. (スペイン)  
 Mabo Farma S.A. (スペイン)  
 Meiji Seika Europe B.V. (オランダ)

(備考) 当期の当社グループの連結範囲は、上記連結子法人等21社のほかに、持分法適用会社が1社あります。

## 社会から必要とされる企業であり続けるために

～CSR（企業の社会的責任）の取組みについて～

最近のCSRの考え方として、「企業が社会の一員として存続するために、経済性はもとより社会的な公平さや環境への配慮などを活動のプロセスに組み込み、バランス良く経営する責任がある」との認識が一般的となっております。

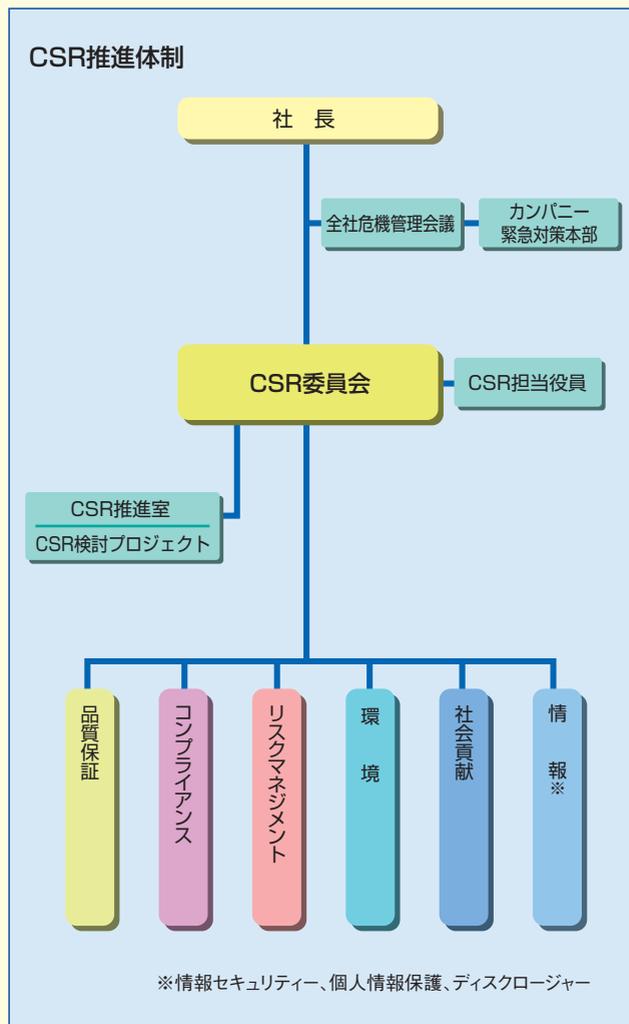
当社では、2004年10月にCSR推進組織として「CSR推進室」を設置、2005年4月には当社グループのCSR活動の基本方針や重要事項の審議・決定機関としてCSR担当役員を委員長とする「CSR委員会」を設置し、積極的にCSR活動を推進しております。

### ●当社のCSRの考え方

当社では「私たちは、夢と楽しさ、いのちの輝きを大切にし、世界の人々の心豊かな暮らしに貢献します」の企業理念に基づき、当社グループの社会的責任の重要性をあらためて認識したうえで、現状の取組状況を整理・検証し、推進、改善することにより、**Meiji**ブランドと企業価値の向上に結びつけていくという考え方でCSR活動を推進してまいります。

### ●CSR活動

当社グループは「品質保証」「コンプライアンス」「リスクマネジメント」「環境」「社会貢献」「情報」の6分野においてCSR活動に取り組んでまいります。



菓子・食品

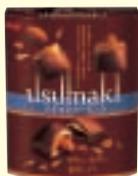
●メルティーキッス

雪のような口溶けの冬期限定チョコ。希少なカカオ、ストロベリー、抹茶の3種類をラインアップしました。



●うすまきアーモンド

厳選した香ばしいアーモンドをまるごとうす焼き生地で幾重にも巻き、ミルクチョコで包んだチョコレートです。



●ショパン

チョコレートのカップにプラリネチョコを入れ、パリっとした二度焼きのパイを乗せました。



●リッチフラン  
粒果肉の森イチゴ

ホイップしたミルク感たっぷりのホワイトチョコに、フリーズドライのイチゴ果肉が入ったストロベリーチョコをコートしました。



●リッチフラン  
粒挽きアーモンド

ヘーゼルナッツとアーモンドを練り込んでホイップしたナッツチョコに、香ばしい粒挽きアーモンド入りのバターチョコをコートしました。



●たけのこの里 スイートポテト  
(期間限定品)

スイートポテト風味のチョコの上にもろやかなミルクチョコをかぶせ、サクリ香ばしいクッキーを組み合わせたたけのこの里です。



●キシリッシュ  
モーニングライム

酸味の効いたライム風味で息を爽やかにする成分を配合したキシリトール入りのガムです。



●テオプロ 袋

エクアドル産の厳選豆を使用し、高濃度ポリフェノール500mgを含んだ大人向けのココアです。



●おいしいココア

カカオ本来の豊かな香りとコクにこだわった牛乳用ココア、冷たい牛乳にも簡単に溶ける顆粒タイプです。ビタミンD、フラクトオリゴ糖配合。



●銀座黒カレー

銀座カレーのソースをベースにコクとうまみを際立たせた銀座ブランドのとおきメニューです。



●銀座赤カレー

銀座ハヤシで使っているドミグラスソースをベースに赤ワインとトマト、りんごで仕上げた芳醇な味わいが楽しめます。



●銀座カリールウ

煮込み感が味わえる「ペースト」と香り立ちの良い「フレーク」の2タイプのルウでつくる芳醇な味わいの銀座カリーです。



## 薬品

### ●レザフィリン

腫瘍になじむ光感受性物質で、「光線力学的療法」と呼ばれる治療法に用いて肺がんを治療するものです。静脈内に投与した後、レザフィリンが集積されたがん病変部位にレーザー光を照射することによって光化学反応を生じさせ、がん細胞を死滅させるユニークな薬理作用をもっています。

#### 【参考】

光線力学的療法は、外科的手術に比べ身体への侵襲が少なく、肺機能の温存が可能なことから、高齢者の方や病変部位の機能低下が見られる患者様に対し、有用性の高い治療法とされています。



## ヘルスケア製品

### ●ザバス

#### アミノ2000クイックショット

トレーニングで酷使したアスリートのすばやいリカバリーのために、吸収の早いアミノ酸源「大豆ペプチド」を配合。必須アミノ酸を完全なバランスで含む大豆ペプチドに、アミノ酸（BCAA、グルタミン、アルギニン）を配合しました。薬局・薬店・スポーツ店でお求めになれます。



### ●ザバス

#### プロテイン タイプ1 ネオストレングス

##### 爆発・瞬発系トレーニング

グで筋量と筋力アップを目指すアスリート向けの商品です。アミノ酸バランスの良いホエイプロテインを使用しました。薬局・薬店・スポーツ店でお求めになれます。



### ●カラダナビ 解決プラン

#### グルコサミン&コラーゲン

加齢による節々の悩み改善につながるサプリメント。軟骨の構成成分のグルコサミン、軟骨を形成するコラーゲン、さらにその働きを助けるビタミンCを配合しました。薬局・薬店でお求めになれます。



### ●カラダナビ 日常プラン

#### 特濃カルシウム&マグネシウム

日本人に不足しがちなカルシウムに加え、カルシウムの量に応じてバランスよく補給することが大切なマグネシウムもたっぷり。ふたつの主要ミネラルを豊富に配合したソフトキャンデータイプです。薬局・薬店でお求めになれます。



### ●アミノコラーゲン

#### チュアブルタブレット

「アミノコラーゲン」シリーズに水なしで食べられるレモン味のチュアブルタブレットをラインアップしました。10粒で魚由来のコラーゲンペプチド5000mg、ビタミンC50mg、グルコサミン60mg、アミノ酸（アルギニン）450mgを摂取できます。薬局・薬店でお求めになれます。



### ●イソジン

#### プロテクトマスク

「イソジンうがい薬」の主成分であるポビドンヨードが化学結合したフィルターを使用し、フィルター上でウイルス、細菌を吸着してのど、鼻への侵入を防ぎます。薬局・薬店・コンビニエンスストアでお求めになれます。



### ●明治G トローチ

炎症を抑える成分「グリチルリチン酸二カリウム」と生薬の「キキョウエキス」がバランスよく働いて、のどの痛み・はれ・声がれなど、のどの不快な症状にすぐれた効果を発揮します。薬局・薬店・コンビニエンスストアでお求めになれます。



## 「100% Chocolate Café.」 オープン!

2004年12月7日(火)、明治製菓本社ビル1階に「100% Chocolate Café.」がオープンしました。

「100% Chocolate Café.」は、“チョコレートの明治”が100%プロデュースしたユニークなチョコレートテーマカフェです。

その名が示すとおり、フードメニューには全て明治のチョコレートを使用し、新しいチョコレートの“おいしさ”と“楽しさ”、“世界観”を発信するカフェです。

お陰様でオープン当初から多くのお客様にご来店いただき、フードメニューはもとより、毎日レシピが異なる、日付の入った「365日のチョコレート」やカカオ豆の産地別をはじめとする56種類のチョコレートも大好評を得ております。

また、多くのマスコミで取り上げられ、“チョコレートは明治”の企業イメージアップに貢献しております。

今後も新たなフードメニュー等を開発し、いつ来てもチョコレートの新しい発見があるようなカフェにしていきたいと思っております。



## 「アミノコラーゲン」が 美容情報WEBサイト 「@cosme (アットコスメ)」で ベストコスメ大賞を受賞!



女性に圧倒的に支持が高い美容情報専門WEBサイト「@cosme (アットコスメ)」で、1年間支持された商品が部門別にランキング発表されましたが、当社「アミノコラーゲン」がサプリメント部門で第一位となりました。

「@cosme」の会員がサイト掲示板に商品をポイント(0~7点)評価したものが受賞基準となっており、今回の受賞は、一般消費者による客観的な評価によるものといえます。

当社の基礎美容食品「アミノコラーゲン」が、これからもコラーゲンサプリメントNo.1としてより高い支持を受けられるために、リニューアルを行うとともに品揃えの充実を図り、さらなる認知拡大を目指してまいります。



## 明治チューインガム株式会社

明治チューインガム株式会社は、昭和35年に御園製菓株式会社に明治製菓株式会社が出資して、明治ブランドのガムを製造する工場として設立されました。昭和48年からは明治ブランドのガムの製造を続けながら、自社販売網を整備して、自社ブランド品の生産・販売を開始し、開発・生産・販売までを自社で行う会社となりました。現在では、チューインガムとキャンデーを柱として、明治製菓品と自社品にOEM品を加え、2004年度年間売上高は約95億円となっています。

主力商品は、明治製菓品では、「キシリッシュ」「プチガム」「ワタガム」「ワタパチ」等、自社品では「すっぱい葡萄にご用心」「すっぱいレモンにご用心」等のすっぱいガムシリーズ、「ガブリチュウ」「チューイングキャンデー」食玩の「エキスプレスライナー」シリーズ等があります。

2003年にISO14001の認証を取得し、産業廃棄物削減やリサイクル率向上といった環境活動をしています。また、品質管理やTPM（全員参加の生産保全）活動にも取り組んでいます。

所在地は名古屋市の隣、愛知県の西枇杷島町（本年7月7日より清須市）です。愛知県は中部国際空港（セントレア）の開港、万博（愛・地球博）の開催、最近ではグルメやファッションでも話題になり注目を集めています。

当社も増収・増益を続けており、明治製菓グループの中核を担う企業として、これからも夢と健康を育む新たなおいしさを提供しつづけ、時代を超えていつまでも人々に愛される企業になることを目指してまいります。



本社外観



主要な製品

## 株式会社アステカ

株式会社アステカは、2003年4月より「マキシム・ド・パリ」ブランドを継承し、百貨店での販売を中心に高級菓子事業を展開しています。

現在、「マキシム・ド・パリ」はピエールカルダン氏がオーナーを努め、ホテル、クラブ、レストラン、カフェ等を精力的に展開し、マキシムブランドのさらなる発展を図っています。

その事業展開のなかで、当社は、主に百貨店向けの商品を中心に製造・販売を行っています。直営店舗は、関東圏内の高島屋、三越を軸に、地方店を含めて16店舗で展開し、中元・歳暮期にはマキシムギフトを全国向けに展開しています。2004年度の年間売上高は約10億円です。

主な商品として、生ケーキではナポレオンパイ、ミルフィーユ、焼菓子ではガナッシュの粒をそのまま入れて蒸し焼きにしたガトーショコラが、長くお客様に愛されています。また、夏商品としてはフルーツシャーベットの親しまれています。

当社では、今後もマキシムブランドの名にふさわしい商品をお客様にお届けするとともに、明治製菓グループのなかで、高級菓子事業の分野を担う企業を目指してまいります。



マキシム本店



ガトーショコラ



ナポレオン



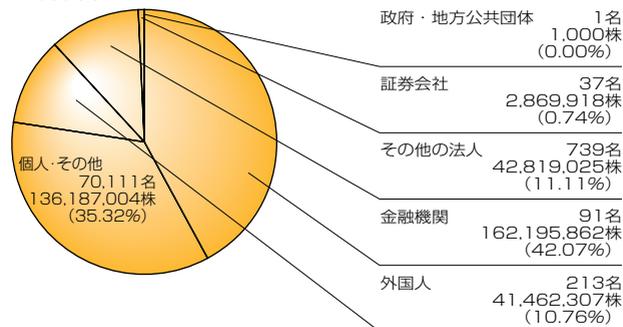
# 株式の状況

(平成17年3月31日現在)

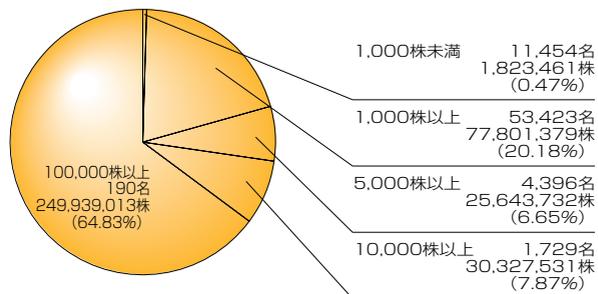
- 会社が発行する株式の総数 796,104,000株
- 発行済株式の総数 385,535,116株
- 当期中の名義書換件数 2,684件
- 当期中の名義書換株数 47,048,685株
- 株主数 71,192名 (前期末に比し3,039名減)
- 1名あたり平均持株数 5,415株
- 大株主 (上位10名)

株主名	持株数 (出資比率)	
	千株	%
株式会社みずほ銀行	18,927	(4.91)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社信託口	17,396	(4.51)
第一生命保険相互会社	16,163	(4.19)
日本生命保険相互会社	14,707	(3.81)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社信託口	11,520	(2.99)
富国生命保険相互会社	10,001	(2.59)
株式会社東京三菱銀行	6,804	(1.77)
東京海上日動火災保険株式会社	6,512	(1.69)
朝日生命保険相互会社	6,386	(1.66)
三菱信託銀行株式会社	5,481	(1.42)

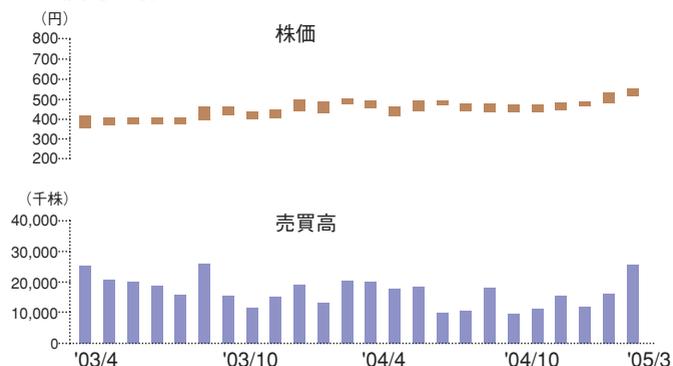
## 所有者別



## 持株数別



## 株価等の推移



# 株主メモ

**決算期** 3月31日

**配当金受領** 利益配当金 3月31日

**株主確定日** 中間配当金 9月30日

**定時株主総会** 6月下旬

**公告掲載新聞**

日本経済新聞

なお、第144期分より日本経済新聞に掲載する決算公告に代えて、貸借対照表および損益計算書を以下のホームページで開示しております。

<http://www.meiji.co.jp/ir/koukoku.html>

**名義書換代理人**

東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
三菱信託銀行株式会社

**同事務取扱場所**

東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
三菱信託銀行株式会社証券代行部

(電話お問い合わせ)  
郵便物送付先

〒171-8508

東京都豊島区西池袋一丁目7番7号

三菱信託銀行株式会社証券代行部

電話 0120-707-696 (フリーダイヤル)

**同取次所**

三菱信託銀行株式会社全国各支店

**実質株主の諸届  
に関する特例**

届出の内容によって証券会社等を經由すべき場合がありますので、あらかじめお取引の証券会社等にご確認ください。

**1単元の株式の数**

1,000株

**単元未満株式の買取  
および買増請求場所**

名義書換代理人事務取扱場所および同取次所

(証券保管振替機関に預託されている単元未満株式については、お取引の証券会社等にお申し出ください。)

## 《お知らせ》

- 住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取・買増請求に必要な各用紙および株式の相続手続依頼書のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル0120-86-4490で24時間承っておりますので、ご利用ください。
- 配当金を郵便貯金口座へお振り込みすることができます。お手続には振込指定書のご提出が必要となりますので、名義書換代理人に用紙をご請求ください。
- 当社は、単元未満株式の買増制度を導入しております。単元未満株式(1,000株未満の株式)をご所有の株主様は、その単元未満株式と併せて1単元(1,000株)となる数の株式の買増しを請求することができます。制度の内容および手続の詳細につきましては名義書換代理人にご照会ください。

### ■株主様へのご優待

3月31日現在の1,000株以上所有の株主様に対し、以下の基準で当社製品を10月中旬に贈呈いたします。

- 1,000株以上：1,500円相当
- 3,000株以上：2,000円相当
- 5,000株以上：3,000円相当



●製品は一例です(2,000円相当)

## 明治製菓株式会社

〈お問い合わせ先〉

〒104-8002

東京都中央区京橋二丁目4番16号

電話 (03) 3273-3353 (総務法務部)



ホームページ (<http://www.meiji.co.jp>)

